



発行所
全私学新聞運営委員会
〒102-0073 東京都千代田区
九段北4-1-26 第一稲穂ビル
電話 03(3265)7551-3
FAX 03(3261)7323
振替口座 00150-0-33477
発行人 西原 春夫
購読料 1年 18,000円
©全私学新聞運営委員会 2011

私学の経営と
教育に役立つ
新聞です。

<http://www.zenshigaku-np.jp>

2月23日号の主な内容

- OECD/CELE学校施設表彰式…2面
- 短大キャリア教育フォーラム…3面
- 公立小の英語教育の実情調査…4面
- 調べる学習コンクール入賞決まる…6面

新校長インタビュー

国際基督教大学高等学校

校長 中村 一郎氏



国際基督教大学高等学校
校(中村一郎校長、東京
都小金井市)は一九七八
年四月に創立。以来三十

三年間、百力国以上の国の営みの中でこのことをもの恵まれている、可者の存在を受け入れている。約四十名のホームルから約五千五百人の帰国痛感する」と、中村校能性は本当に豊かです。」る。そこから、自分らしム単位での授業はく生を受け入れてきた。三長。

「子ども時代にいきなさを発見し、自己を肯定限られている。この原点に常に立ち返り言葉もまったく同じなしているのです」と、中「学校が楽しい」と七百二十人。うち、三分りつつ、学校の現在の教異文化の中に投げ込ま村校長は異文化の壁を乗口々に語る現役生徒。の二が帰国生、三分の一育を検証し、継承、発展れる。それぞれが、苦勞り越えて生き抜いている「卒業生同士が本当に仲が国内生だ。この方針はさせていく。困難ではあしてきている。また、日生徒たちを評価する。が」と、どの期から現在まで一貫して変わらるが、意義は限りなく大本に帰国後の困難は、さ同校は異なるバックグも出てくる証言。このよない。

「学校設
立時の目標

多様性受け異文化の壁越えり

帰国生と国内生の長所生かす

らに大きいというケースい授業を行っていること入学する。

に学び理解を深める 「神と人々に奉仕するも少なくありません。」も特長だ。英語、数学、 同大で日本語教育を担当教育環境を築くこと 人材を育成するという建 「帰国生も、国内生も 国語は、入学前に行うク 当。昨年四月に校長に就 でした。生徒たち、学の本理念、とびっきこの学校でそれぞれの大ラス分け試験の結果に基 任。出身は島根県松江 教師たちが、この目り生き生きした生徒た きな違いに衝撃を受け づいて、学年を四つのレ市、十歳以後東京育ち。 標に実質を与えてき ち、生徒に寄り添う優れる。考え方、価値観が違ベルに分け、一クラス二 ている。学校の日々 た教師集団。これだけ のって認める、他 十五人前後で行って

ラウンドを うな学校に連なる者の責 持つ生徒の 任は重い。

特性を生か 学年二百四十人のうち するため、少 三分の一の八十人が同一 人数クラス 法人が運営する国際基督 教大学教養学部が推薦で